

### 3. 小児科臨床研修プログラム

#### 1. プログラムの目的と特徴

小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できるように研修を行う。指導医と共に入院患者を主治医として担当し、小児科疾患、特に ” Common disease ” の診断・治療の技能を修得させることを目標に研修を行う。また定期的に外来診療・救急診療に携わり、これら外来患者や救急患者の診療についても経験を積む。特に現在問題になっている小児救急医療に関して、指導医と共に積極的に当直業務に携わり、小児救急患者のプライマリケアについて修得する。

#### 2. プログラムの管理と運営

指導責任者を中心として指導医たちが相互に連絡をとり、また各科との連携を緊密にしてプログラムを管理・運営する。

#### 3. 研修課程

研修期間は卒後2年目であり、研修日程は原則として1カ月以上とする。

#### 4. 研修内容と到達目標

##### 1) 研修内容

指導医の指導の下で、一般小児医療の基本的な知識・DECISION MAKINGの方法論・診療手技について研鑽を積み、小児のプライマリケアのできる医師をめざして研修を重ねる。

一般小児医療については、指導医と共に入院患者の主治医となり、適切に診療し正しく病歴を記録し、症例は可能な限り感染症・呼吸器疾患・アレルギー疾患・神経疾患・循環器疾患・腎疾患・消化器疾患・内分泌代謝性疾患等、一定疾患に片寄る事なく幅広く小児疾患全般にわたって経験し研修を積む。

外来診療については、指導医の診察に付き、小児の各年齢特性に応じた診療技法を研修する。特に乳幼児の ” Common disease “の基本的診断能力を培う。また指導医と共に当直業務に携わり、積極的に救急医療についても研修する。

##### 2) 小児科週間スケジュール

	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00
--	------	-------	-------	-------	-------	-------

月	病棟業務 外来（問診・処置）	病棟業務	指導医と当直研修
火	病棟業務 部長回診	予防接種外来	病棟業務
水	病棟業務 外来（問診・処置）	救急外来	病棟業務
木	病棟業務 新生児研修	超音波検査	病棟業務 症例検討会 指導医と当直研修
金	病棟業務 N I C U研修	脳波検査	病棟業務

### 3) 到達目標

- a) 面接及び病歴の聴取：患児及びその養育者、特に母親との間に好ましい人間関係をつくり有用な病歴を得る。
- b) 診察：小児の各年齢を理解し、正しい手技による診察を行い、これらを適切に記載し整理できる。
- c) 診断：患児の問題を正しく把握し病歴、診察所見より必要な検査を選択して得られた情報を総合して、適切に診断を下すことができる。
- d) 臨床意思決定：個々の疾患や障害に対して考えられる治療法の中から患者、家族の個々の状況、特殊性に応じて、最も適切な治療法を実施できる。
- e) 治療：患者の性・年齢・重症度に応じた適切な治療計画を速やかに立てこれを実行できる。薬物療法については、発達薬理学的特性を理解して薬剤の形態、投与経路、用法、用量を定め、服用法についても適切に指導する。また食事療法が実施できる。
- f) 診療技能：
  1. 身体計測
  2. 注射（静脈、筋肉、皮下、皮内）
  3. 採血（毛細管血、静脈血、動脈血）
  4. 導尿
  5. 腰椎穿刺
  6. 骨髄穿刺
  7. 胸腔穿刺
  8. 浣腸
  9. エアロゾール吸入

10. 酸素吸入
  11. 静脈点滴
  12. 胃洗浄
  13. 経管栄養法
  14. 光線療法
  15. 蘇生（人工呼吸、閉胸式心マッサージ、気管内挿管、除細動）
  16. 消毒、滅菌法
- g) 臨床検査法：
1. 血液及び尿の一般的生化学検査
  2. 一般的微生物学的検査
  3. 一般的血清学的検査、免疫学的検査
  4. 内分泌学的検査（各種負荷試験など）
  5. 腎機能検査
  6. アレルゲン検査
  7. 新生児（先天代謝）マススクリーニング
  8. 脳波、誘発脳波
  9. 超音波検査
  10. 単純X線検査（頭部、胸部、腹部、四肢）
  11. C T ・ M R I

## 5 研修に関する評価

研修医は随時自己評価を行い、指導医が到達度を適宜チェックし、評価する。

## 6 当科で得ている施設認定

日本小児科学会専門医研修関連施設